

□ □

□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □

[illegible]

□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □

[illegible]

□□□ 11□12□(□) 18:30□□□□ 18:00□

□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □

□ □ □ □ □ □ □ □

1974□□□□2002□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

□ □ □ □ □ □ □ □ □ □

[illegible]

2010-2010

□□2011□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□2012□□

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□3□□

7-12-14

048-862-0355 fax 048-866-0425

□□□□500□□□□□□□□□□□□□□□□

□ □ □ □ □ □ □ □ □ □

102-008515 TEL 03-3265-8119

●JR□□□□□□□□□□1□□

●□□□□□ / □□□□□□□□□□3□□

第4回 公正な税制を求める市民連絡会学習会

反貧困の財政学

—「救済」から「連帯」へ—

現在、財政破綻や国債暴落という言葉に脅え、ムダを無くし、節約を行うことが社会の共通の善と考えるような傾向があります。さらに、景気対策から所得税の累進性が弱められ、国際競争力の強化から法人税率が引き下げられ、その減税財源とするために、直間比率の是正、社会保障財源の強化を理論的根拠として、さらなる消費税増税がされようとしています。

一方で、財政の役割のひとつとして、低所得者への配慮、所得再配分があげられます。納税は「社会の連帯」を基礎としており、納税者は他者のための負担を受け入れるかは、その社会の寛容さによるのであって、政治的に多数を占める中間層が、低所得者層に対して連帯意識を持つかどうかに関わっています。

どうすれば、貧困と格差の拡大に歯止めをかけ、人々は、健康で文化的な生活をして幸せに生きることができるのか、どのような財政の指針を持つべきなのか、この問題に長年研究し、取り組まれてきた高端正幸先生をお招きします。是非、御参加ください。

11月12日(木) 18:30～ (開場 18:00)

講師 埼玉大学准教授 高端正幸 先生

講師プロフィール

1974年生まれ 2002年東京大学院経済学研究科博士課程単位取得退学

東京市政調査会(現・後藤・安田記念東京都市研究所)研究員、聖学院大学政治経済学部教授、新潟県立大学国際地域学部教授を経て、現在、埼玉大学准教授。

主な著書「希望の構想」(共著、岩波書店、2006年)、「公私分担と公共政策」(共著、日本経済評論社、2008年)、「地域切り捨て一生きていけない現実」(共編著、岩波書店、2010年)、「自壊社会からの脱却—もう一つの日本への構想」(共著、岩波書店、2011年)、「復興と日本財政の針路」(岩波書店、2012年)

会場：主婦連合会会議室 (主婦会館プラザエフ 3 階)

主 催：公正な税制を求める市民連絡会

事務局連絡先 弁護士 猪股正 さいたま市浦和区岸町 7-12-1 東和ビル 4 階

埼玉総合法律事務所 TEL048-862-0355 fax048-866-0425

資料代：500 円 (経済的に困難な方は無料)

会場：主婦会館プラザエフ

〒102-0085 千代田区六番町 15 番地 TEL 03-3265-8119

●JR 四ツ谷駅 麹町口前(歩 1 分)

●地下鉄南北線 / 丸の内線 四ツ谷駅(歩 3 分)

